

会 報

恩 荷

第24号

2025年(令和7年)

11月28日

題字 栗 森 貢

おんが

男鹿市退職校長会

秋大附属幼稚園に勤務して

副会長 村木 康子



さを痛感しました。

保育者の子どもへの関わり方を見ていると、一緒に遊んでいても遊びの邪魔をせず、子どもの主体性を尊重し見守っているのです。数日後、また3人で仲良く遊ぶ姿が見られ、ホッとしました。

幼稚園に勤務して、あたりまえのことですが、子どもの育ちは連続していることに改めて気づかされました。

私自身1年生担任の時、入学当初の子どもに対して、今までの育ちを途切れさせてしまうような指導や接し方をしていたことを反省しました。

もちろん、学校でのルールを指導することは必要です。その上で、個々のもっている力にもっと目を向け、さらに伸ばすことが肝要でした。

横浜に住む孫はまさに幼稚園年少児。体験の中から様々なことを習得しています。自由な発想と工夫から遊びの中で心身ともに大きく成長することを楽しみにしています。

引き離し、保育室へ連れていきます。子どもも徐々に園に慣れ、遊びに夢中になり笑顔が見られるようになります。

園の教育方針は『自発的活動としての遊びを大切にして、心身の調和のとれた発達の基礎を培う』ことです。同年齢の子ども同士の遊びが多いのですが、遊戯室(小さい体育館のような所)で異年齢児が自然に一緒に遊ぶ姿も見られます。年中・年少児は、年長児の遊びを見て、真似る、協力する、造り出すことを経験していきます。保育者は遊びを観察して次に必要な物や場の設定を準備します。もちろん予想していた遊びをせずに、全く別の遊びに移ってしまう

こともありましたが、そんな時も臨機応変に対応します。ある日、園を回っていた時に、3人の年長女児から『副

園長先生、一緒に遊ぼう』と誘われました。4人で役を決め『おかあさんごっこ』を始めました。楽しく遊んでいたのですが、次第に3人の様子が微妙な雰囲気になり始めました。大人の私に気を使い始めたのです。このままここにいるのは3人の遊びを壊してしまうと思い『お仕事があるから戻るね』と伝え、その場を離れました。その後、3人はなんとなく以前のように無邪気に仲良く遊びを楽しむ様子が見られなくなりました。私は、大人が遊びに関わる難し

私戸小学校に校長として赴任する前の3年間、人事交流で秋田大学附属幼稚園に勤務しました。幼稚園免許をもたない私にとっては、まさに『晴天の霹靂』の異動となりました。ただ、仕事としては、直接園児の保育に携わるものではなく、副園長として園の経営運営を担っていくものです。園長先生は、秋大の教授がなさっています。週に数回いらして、ご指導・アドバイスをしてくださいます。

附属幼稚園では原則保護者の送迎です。入園当初、保護者と離れたくなくて、しがみついたり大声で泣いたりする3歳児もいます。そこを保育者(教諭や保育士)が上手に



実施事業

男鹿市退職校長会総会・研修会

講演「鹿兒島から秋田へ 男鹿の魅力とお仕事」

講師 ㈱See Visions 今村 安里氏

退職校長会総会・研修会が4月25日(金)にTENOH A男鹿(旧㈱秋田海陸船川営業所)で来賓・会員含め26名が出席して開催された。また、懇親会は20名が参加して、道の駅おが「オガール」のレストランで行われた。

研修講演要旨

■鹿兒島の中学・高校時代

鹿兒島県日置市出身の28歳である。中学時代は勉強が結構好きで、数学と英語が大好きであった。海外や英語と関わる仕事に興味をもち、宇宙飛行士や考古学者にも憧れていた。

高校は県立の美術科に入学した。授業の1/3が美術の学習で、修学旅行はフランスのパリと、県立ながら独特な環境の高校生活であった。

高校3年の夏休み、JICA海外協力隊を経験された恩師の紹介



で県国際協力体験事業プログラムに参加し、カンボジアの地方

の村でホームステイを体験した。

ホームステイ先の地域では電気は通っていたが水道はなく、雨水を貯めて使っていた。また、自然のサイクルに合わせた生活にとても衝撃を受けた。しかし同時にその土地の暮らしや地域と関わる面白さを感じ取ることもできた。

■秋田公立美術大学時代

大学進学を機に秋田に来たが、きっかけは秋田公立美術大学が4年制に変わる時で、新しいことが学べると期待したからである。

大学生活ではアルバイトでお金を貯め、海外へ旅することを繰り返した。高校時代に訪れたカンボジアへは長期休みのたびに通うようになった。次第に日常会話ができるようになり、実際に住みたいとの気持ちが高まった。そして、大学2年終了時で休学し、首都プノンペンに半年間アパートを借り、中古バイクで色々な場所を巡った。地方の少数民族や湖上で生活する水上村の暮らし、盛んな屋台文化等、独特な暮らしを体験できた。

復学後も、アメリカ各地を1ヶ月程かけキャンピングカーで訪ねたり、南米ペルーで世界遺産のナスカの地上絵やボリビアでウニ塩湖の絶景を観たりする等、現地でしか味わえない多くの経験ができた。また、フィリピンには語学留学で2ヶ月間滞在し、英語を勉強することができた。

一方、秋田での学生生活では古民家のリノベーションに関わり、レジデンスやギャラリーに再生した施設でアーティストや地域の方々との交流を通して、地域の色々な面白さに気づくことができた。また、潟上市で田んぼを借り完全無農薬の米作りに取り組んだ。種もみを播き、苗を育てて手植えをし、草取りや収穫も自ら行う、米どころならではの経験ができた。

■男鹿の魅力について

卒業後に男鹿で最初に住んだのは戸賀で、借家は映画「なぐ子はいねえが」の撮影に使われた建物だった。そこは夜には満天の星空が広がる天然のプラネタリウムで、とても美しく気持ちよかった。

次に、船川で郵便局の配達員として勤務した。次第に地域の人も顔見知りになり、色々な人の温かさに支えられて仕事ができる。

男鹿では、他地域と違い「男鹿いい所だべえ」と話す方が多く、地元暮らしや住まいに誇りや自信を持てることは、とても大事なポテンシャルだと感じている。

■仕事について

現在、男鹿駅前ハブアゴー広場の施設長やホットドックカフェの店長、TENOH A男鹿や森長旅館の運営等に携わっている。

カフェがオープンの際は、郵便局勤務で出会った地域の方々のご縁が大きな力となった。また、広場では企画や出展募集等を担当し、年数回色々な人の力を借りて大きなイベントを開催している。

森長旅館は国登録有形文化財指定の建物で、委託を受けた弊社が、趣ある建物を大事に残してリノベーションを行い、その運営に当たっている。客室は往時の調度品を配した部屋やドミトリイ等があり、全国的にも珍しい蔵を丸ごとサウナにした施設もある。また、ラウンジは旅行者と地元の人とが会えるスペースとなっている。

これまで培ってきた地域との関わり方や旅行者としての視点、森長旅館の運営やハブアゴー広場の企画等と強く繋がっていると実感している。

新会員から

時間×情熱×スキル

櫻庭 豊



7月、退職記念に大阪万博と京都に行ってきました。万博ではいくつかのパビリオンと木造の大屋根リングを見ましたが、現代のスキルの高さに驚いたものの、感動を覚えることはありませんでした。一方、京都では平等院鳳凰堂や三十三間堂、東寺を参観しましたが、建造物の迫力に心が震えました。秋大附中で同職した彫刻家である校長先生が「一流の芸術作品を観ると心が震えるのは、その作品に作者の情熱と制作に費やした膨大な時間、超一流のスキルが込められているからだ」と全校生徒にいつも話していました。万博のパビリオンと、京都の建造物との違いは、製作に費やした時間と携わった方々の情熱だと思います。

38年間、人生の多くの時間と、情熱を子どもの成長のために注いできました。スキルは超一流ではないですが、磨く努力は続けてきました。退職に当たり、これまで私と出会った子どもたちが、一流の芸術作品のように、関わる人々の心に響く人に成長していることを願ってやみません。

第二の社会人修行中

加賀谷 正人



幸運なことに母校の男鹿東中で採用され、たくさんの方にお世話になりました。同じく母校の船越小で退職となりました。本原稿執筆時の7月、連日猛暑が続く中、エアコン設備がまだ完備していない学校で過ごした日々が、既に懐かしく感じられます。

退職後、まずは現役時代に実行できなかった「ぶらり旅」に何度か出かけてきました。「ぶらり」といっても朝から晩までひたすら鉄道を乗りまわす鉄道旅が主であり、その修行のような過酷さから同伴者はおらず、気ままな一人旅を満喫しているところです。今しばらく、あきるまで気ままな鉄道旅をしていきたいと思い、その計画を着々と進めているところです。

7月初めには、船越小3年生の校外学習の外部講師として、久しぶりに子供たちと会う機会がありました。数か月ぶりに再会した子供たちの成長した姿に大きな刺激をもらうことができ、自分ができることをこれから少しずつ実行していきたいと思いを新たにしたいところです。諸先輩の皆様からのご指導をよろしくお願いいたします。

「舟を編む」ように

森山 直人



「舟を編む」という不思議な表現。舟は「造る」もののはずなのに、なぜ「編む」なのか。先日再放送されたNHKドラマ『舟を編む』は、その答えを物語全体で示していた。辞書をつくるという営みは、言葉という広く深い海を渡るために、安心して乗れる舟を根気強く編み上げていく作業にはかならない。語の意味を掘り下げ、定義を練り、用例を選び抜く。登場人物たちは一つひとつの言葉に真摯に向き合い、静かな熱意をもって編み続けていた。その姿は、人種や世代を超えて共感を呼び、この作品が海外でも高く評価されたことから、その普遍性がうかがえる。

振り返れば、教職に携わっていた頃の私は、周囲の景色に目を向ける余裕もなく、思いつきと勢いに任せて走り抜けてきたように思う。もっと丁寧に重ねるべき場面が多くあり、今なお悔いが尽きない。だからこそ、これからの時間は、新たに会おうであろう人や出来事を、「舟を編む」ようにひとつずつ丁寧に紡ぎながら歩んでいきたい。



新会員から / 玄友会総会・研修会

目覚まし時計とYシャツと私

鳥井 雅則



ふと気付くと、退職してから何事もないまま半年が過ぎました。目覚まし時計をセットしなくても自然に目が覚める生活は、何十年ぶりでしょうか。起きたいときに起き、寝たいときに寝て、食べたいときに食べるという幸せな時間を謳歌しています。ふとクローゼットに目をやると、Yシャツもハンガーに掛かったままで、3回ほど袖を通しただけです。私服で過ごすことが多く、こんな人生もまた素敵なのです。

私の家系は、男性が短命なので、健康寿命こそが重要と考えています。あと十数年はしっかりと自分の足で歩き、通院しながらも余生を楽しみたいものです。現役の頃は仕事や部活動を理由に、家のことや親のこと等、妻に任せつきりでした。罪滅ぼしではないですが、元気なうちに一緒に映画を観たり、旅行をしたりしたいものです。

現在、実家や小屋の整理に奔走しています。また、耕運機や草刈り機を購入し、畑仕事に精を出しているところです。ふと考えてみると、意外に人生を楽しんでいる自分がここににいることに気がきます。

玄友会総会・研修会 開催

研修「風と海の学校 あきた」の施設について

(株)日本海洋事業 訓練運営部顧問 船木和則氏

10月3日(金)県立男鹿海

洋高等学校で伊藤栄二県退職校長会長・鈴木雅彦市教育長を来賓に迎え、現職校長を含む会員24名が出席して総会が開催された。オガレのレストランで開かれた懇親会は、来賓の菅原広二市長にもご参加いただき、会話の弾む和やかな会となった。

研修会は、会員でもある船木和則氏が「風と海の学校 あきた」の施設を案内しながら概要説明を行った。

施設説明要旨



当施設は
産官学の連
携の下、県
立男鹿海洋

高等学校の校舎及び旧船川南小学校の一部を活用して、洋上風力発電所の作業員や技術者向けの基本的な安全訓練プ

ログラムを提供している。

開所以来、見学者がたいへん多く、昨年度は県内外及び海外から987名の見学者があつた。とても注目されている施設である。

◆実習棟訓練プール

訓練プールは海洋高校のプールに洋上風力発電の訓練設備を設置したもので、画期的な取組例である。平成12年に建設され、階段状の3段構造で、最深部は水深10メートル。建設費は軟鋼板製のため4億8千万円と割高であつたが、揺れに強く東日本大震災でも一切影響はなかった。

国際条約で求められる船員向け基本訓練は、海上で起こりうる有事への対応を想定して、火災時の消火活動から船内搜索、船を捨てて退避する際に使用する救命属具の使用方法や生存技術等の訓練を

行っている。

また、洋上風車の作業技師向け海上生存訓練は、海中転落等の事故から身を守る技術を習得する訓練である。同訓練はこれまで北九州で受ける必要があつた。それが当施設で受講可能となり、地元事業者からは旅費等の経費削減に繋がりたいへん喜ばれている。

◆航海シミュレーション室

洋上風力発電の作業員を安全に洋上風力発電施設へ輸送するためのCTV操船訓練を行っている。訓練は最新の操船シミュレータを用いて行われ、操船や作業員移送の知識や技術を学ぶことができる。

当操船シミュレータは、CTV特有の操船の臨場感と没入感を体感できる日本初の操船訓練プログラムである。

(CTV船：胴体を二つ持つ双胴船)



会員の交流広場

●男鹿市船川港 今津谷 勉 寒風山

7月25日、妻と長女の3人で寒風山にドライブした。快晴の下、頂から眼下に広がる眺望は素晴らしいの一言に尽きる。県外からの観光客もいたが、雄大な景観に感嘆の声を上げていた。

改めて寒風山は、男鹿のシンボルとして鎮座し、男鹿市民の心に寄り添ってくれることだろう。寒風山に感謝、感激。

●男鹿市角間崎 角崎 紘二

82歳になりました。なんとか元気に過ごしています。週2日社会福祉法人男鹿更生会に出勤しております。来年の6月まで務めることになりそうです。神職の方は体と相談しながら、もう少し続けようと思っています。高齢者野球の方も応援だけになりました。今後は無理をせず、読書、テレビ観戦、クイズ解き等で過ごしたいと思っています。退職校長会の活躍を期待しております。

●五城目町 鳥井 雅則

退職してもう半年になります。あわただしかった頃をよく生き抜

いたものだと思っています。今は、ただただゆつくりと時間が過ぎていく毎日です。心身を一度リセットして、心ゆくまで自由を満喫しています。週に2度の病院は想定外でしたが、残りの人生をおだやかに過ごしたいと思います。

●男鹿市弘戸 木元 正子



●秋田市飯島 木村 守人

今年度は天王中学校で非常勤講師をしています。主に中1と中2の数学を担当しています。数学に興味関心が高く、様々な見方や考え方で課題を解決していく生徒とのやりとりを楽しんでいます。相変わらず教室から教室へと渡り鳥をしています。私生活の楽しみは1歳になる孫が週に1回程度遊びに来ることです。「歩いた、話した」と言っては妻と共に大喜びしています。

●男鹿市北浦 三浦 豊彦

不思議な数の遊び心
令和7年7月7日に、標高777mの東島海山の記念登山が催され、県内外から200名以上の参加者が登頂したそうです。

7月7日当日、しらぎグラウンドゴルフの例会も行われました。くしくも1位から3位までが同スコアで、ラッキーマセブンのオンパレード、77、77、77を連ね、こちらも記念大会となりました。

●男鹿市角間崎 角崎 義正

数年前に交わした二人との会話が、何度も思い出してくる。

A氏は、「この頃、物忘れヒデスナ」と、顔を近づけ、しんみりと語っていた。温厚な人であった。K氏からは電話があり、用事が終わってから、「クンジュ(90歳)ナッタステ」と。世話好きで面倒みがかかった。

長い間のつながりをなつかしく思い出すことが多くなっている。

●男鹿市船川港 泉 津太郎

2・3年前、寒風山のご真ん中できれいなハマナスに遭遇。ちよつとびっくり。その後、数ヶ所で

も会えた。これはその場所が数年草刈りにあわなかったために「野バラ」が出現することができた：か。今、寒風山では定期的に草刈りが行われているようだ。数年かまわれないでみると、ヤマハギが増え、全山「萩の山」となる……。萩の花、尾花、葛花、女郎花……。秋の七草の山がいろいろ、全山シバ草原がいいか、悩ましい……。

●男鹿市船川港 佐藤 磯男 メジロ(メジロ科)

眼のまわりが白く、背面がうぐいす色の美しい鳥です。我が家では、10年ぐらい前から周年生息し、夏季には杉の木の上段で美しい声で囀っています。冬季には庭のウメモドキ、ピラカンサなどの実を好んで食べていますが、実がなくなると干し柿にも集まってくる。

この写真は我が家のベランダの干し柿を食べに来た時のものです。





会員の交流広場 / 実施事業

● 男鹿市船越 遠藤 康子



● 男鹿市船越 西村 充司

波も静かな八郎潟の
朝風清くみなぎる校舎
ああわれらここに学び
知徳を日々にみがき合う
常磐の松の緑をうつし
伸びゆく船越中学校
雲の陰りに陽の輝きに
そびゆる雄姿寒風山よ
ああわれらここに育ち
(中略)

● 男鹿市船越 西村 充司

昭和47年に脇本中学校と統合し
て男鹿東中学校となった船越中
学校の校歌である。1番と2番の歌
詞が混在している可能性もある。
少子化の進行とともに多くの学校
が閉校している男鹿市内の小中
学校の校歌の記録をまとめてほしい
男鹿市退職校長会ならできると思
っている。

● 男鹿市船川港 三浦 正光

新聞のイラスト欄に教え子の作
品が載っていた。「K先生の奥さ
んの絵みたいだ。」と妻が呟いた。
50年くらい昔のことを、この1年
MCIで苦しんできたとは思えな
い嬉しい呟きだった。

教え子に心から感謝するととも
に、これからの老いの不安を払拭
するような明るい呟きにも感謝し
たい。

人生には苦しみと友達になり味
わえる幸せもあるかもしれない。

● 男鹿市五里台 加藤 牧子



● 湯上市大王 小野 久子

暑かった今年の夏の近況報告で
す。退職から20年が過ぎ気力・体
力、精神的にも衰えを感じるよう
になったのですが、小1になった
孫と楽しく過ごせた2週間が何よ
りの夏となりました。秋田を感じ

てほしいとの思いから、毎年帰省
した際、男鹿の砂浜・磯浜をはじ
め竿灯等様々なところへ。今年は
尾去沢のメインランドで砂金ほり
にも挑戦できました。

そして、帰りの車に便乗して川
崎まで。車中がまた賑やか脳トレ
でおしゃべり、クイズ等、本好き
の彼の問題に大あわての私。国営
昭和記念公園では、広い広い園内
をどんどん走り追いつかず。かと
思うと昆虫展ではじつくり本物と
図鑑くらべ、なかなか次へ進めま
せん。作品作りコーナーでは、「お
ばあちゃんも何か作ればー、楽し
いよー。」

2週間もあつという間に過ぎ、
東京駅での別れは辛いものがあり
ました。こんな様子を大空からな
がめ、きつと安心していているでし
う主人を思いながら…来年は一
緒に活動できるかな…なんて思
い我家へ。そうだ、ずっと続けて
いるカーブスで筋トレを続けよう
がんばろうと思っっているこの頃で
す。

● 五城目町 一関 隆則

この夏、念願の福井県立恐竜博
物館に行つて来ました。平日にも

関わらず沢山の来館者でした。化
石の展
示点数
が半端
なく多
かった
です。



グラウンドゴルフ大会

第13回グラウンドゴルフ大会
が6月23日(月)に大潟村多目的
広場で開催された。会員9名が
参加して、4コース32ホールで
熱戦を繰り広げた。

大会結果 (数字は打数)

- 優勝 田沼隆夫 (67)
 - 2位 伊藤 章 (72)
 - 3位 三浦豊彦 (81)
 - 4位 浅井繁樹 (83)
 - 5位 天野 実 (86)
 - 6位 佐藤磯男 (86)
- ホールインワン賞(数字は回数)
田沼隆夫 ③ 天野 実 ②
伊藤 章 ① 三浦正光 ①
今津谷勉 ①

最高齢者賞 天野 実